

2008年9月7日 聖靈降臨後第17主日

イザヤ 56:1-9 ローマの信徒への手紙 11:25-36 マタイによる福音書 15:21-28

★今週の聖句

「婦人よ、あなたの信仰は立派だ」

マタイによる福音書 15:28

★ねらい

- ①異邦人の土地（ティルスとシドン）での癒しのわざを通して、福音がユダヤ人以外の人々にももたらされることになった。
- ②カナンの女性の機知に富んだ信仰に注目する。

★説教作成のヒント

1. カナンの女性はイエスを「主よ、ダビデの子よ」と呼んでいる。それは、メシア（救い主）への信仰の告白である。
2. イエスの、この女性に対する態度の変化に注目する。最初は「何もお答えにならなかった」が、最後は「婦人よ、あなたの信仰は立派だ」と賞賛している。イエスの女性に対する態度の変化（沈黙→否定→賞賛）がこの箇所を読み解く鍵となる。

★豆知識

イスラエルの失われた羊：マタイ 10:6、エレミヤ 50:6 参照。イエスの使命はイスラエルの民の救いであった。イスラエルは異邦人の救いのために選ばれた民なのである。

★説教

イエスさまって、誰にでも親切で優しい、という印象をわたしたちは持っています。けれども今日の箇所のイエスさまって、いつもと違うように感じませんか？ 実は、それには訳があるので。イエスさまの時代、イエスさまが住んでいたイスラエルという国は外国の人を嫌ってお付き合いはしていました。と言うのは、自分たちは神さまに特別に選ばれた民族なのだから、神さまが守ってくれるのは当たり前で、外国人はそうではない、そんなふうに思っていました。神さまが自分たちの国を愛し、守ってくれる、困ったときには助けてくれる、それは当たり前だと考えていました。

あるとき、外国の女の人がイエスさまのところに来ました。子どもが病気でとても苦しんでいるから助けて欲しいとお願いしました。いつものイエスさまなら「はい、助けてあげましょう」言うはずなのに、黙っているのです。でも、その女の人は諦めないで「娘を救ってください、助けてください」と繰り返し呼び続けました。お弟子さんたちは、それがうるさくて仕方がありました。イエスさまはその女の人に、「わたしは自分の国、イスラエルの人たちをまず救うようにと神さまから言わされている」と答えました。それを聞いて女の人はイエスさまにこう言いました。「イスラエルの人たちの次にだったら救ってくれますか？私はそれで十分なのです。」 私は二番目に救ってもらえれば十分なんです、イエスさまの救いとはそれだけ大きなものなのです、と言いました。

女の人のこの言葉を聞いたイエスさまは、ちょっと驚いたのではないかと思うのです。イスラエルの国の人たちは、神さまが自分たちを守ってくれるのは当たり前と考えていたことを、この女の人は当たり前とは思っていない！ それどころか、イスラエルの民の残りでいい、それで十分だ正在り！

イエスさまは感心して言されました。「婦人よ、あなたの信仰は立派だ」

神さまを信じて願い続けるとき、神さまから力が与えられます。カナンの女の人は、そのことを私たちに教えてくれたのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□60番

□改訂版7番

やってみよ

□おやつや飲み物をのみながら、夏の思い出話パーティーをしよう。

<おやつの例>

フルーツ寒天・・・寒天と、果物（缶詰でもいい）を切ったものをまぜて冷やす。

*器に盛ったら、アイスクリームやコーンフレーク、白玉団子などを上にのせてもいいですよ。

はなそう

□カナンの人々は、一般的に信仰的にイスラエルの人々と違っていました。でも、今日の箇所に出てくるカナンの女の人は、イエスさまに「主よ、ダビデの子よ。」と呼びかけ、自分の娘の病を癒していただこうと近寄っていきました。このときのカナンの女はどういう気持ちだったと思いますか？想像してみましょう。

□イエスさまは、このカナンの女人に対して無視したり（15章23節）、拒絶したり（15章24節、26節）なさいました。しかし、それでもカナンの女の人はイエスさまに願い続けました。

もし、あなたがこのカナンの女人だったら、この時どうしていたと思いますか？考えてみましょう。そして、他の人はどう思ったか聞いてみましょう。

□「あなたの願いどおりになるように」と言われたカナンの女の人は、この時どんな気持ちだったでしょうか？娘はその場所にいなかったということからも、いろいろ想像してみましょう。

□イエスさまは、このカナンの女人の人のことを通して、今日あなたにどんなことを語っておられると感じましたか？考えてみましょう。

2008年9月14日 聖霊降臨後第18主日

出エジプト記 6:2-8 ローマの信徒への手紙 12:2-8 マタイによる福音書 16:13-20

★今週の聖句

「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる」
マタイによる福音書 16:18

★ねらい

①「わたしを何者だと言うのか」という問い合わせに対してペトロの「あなたはメシア、いける神の子です」という信仰告白は、「あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」と語ったイエスの言葉と切り離すことはできない。

★説教作成のヒント

1. この信仰告白以降、福音書は受難予告が始まり、イエスの十字架の死こそが究極的な神の啓示であることが語られてゆく。福音書の前半部分と後半部分を分ける大切な箇所である。
2. イエスとは誰なのか、3章13節～20節、8章28節～34節、17章1節～8節、26章57節～68節、27章54節を参照してゆくと分かりやすい。
3. ペトロはイエスがご自身の受難予告をされたとき、「サタンよ、退け」と激しく叱責されたが、欠け多きペトロの信仰告白の上に教会を建てると言われたことを心に留めたい。

★豆知識

フィリポ・カイサリア地方はヨルダン川の水源近くにある風光明媚な場所です。近くには異教の神パン(多産の神)の聖所があり、異教の色彩が濃くある土地で宣教の原点であるキリスト告白がなされたのである。

★説教

イエスさまのお弟子さんたちは鼻高々でした。と言うのは、人々がイエスさまのことを昔の偉い預言者だ、などと尊んでいたからでした。お弟子さんたちも、イエスさまは自分たちの国をどの国よりも強くて、素晴らしい国にしてくれる方だと期待していました。

ある日、イエスさまがお弟子さんたちに訊ねました。

「人々は私のことを誰だと言っているのか。」お弟子さんたちは尊されていることを伝えました。イエスさまがそのことについて何か言われるのではないかと期待していたのかも知れません。ところが、「では、あなたがたにとって私は誰なのか。」と逆に聞かれたのです。嵐を静めたり、病気の人たちを癒してあげたりしていたことを見ていたので、特別な力を神さまからいただいていることは知っていました。また、天の国についてのお話もたくさん聞いていました。それでも、ガリラヤ湖で突風にあったとき、イエスさまが一緒にいたにもかかわらず恐ろしくて仕方がなかったのです。だから自信をもって言うことができませんでしたが、ペトロは「あなたはメシア、活ける神の子です」と答えました。

でも本当は、ペトロにはイエスさまが分かっていなかつたのです。それにもかかわらずイエスさまはこう言われました。「シモン・バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。」

イエスさまを信じると言うことは、イエスさまのことを全部知っているから、なさっていること、

話しておられることを全部納得することではありません。分かっていない、納得しているのではない私たちを、神さまが丸ごと包み込んでくださる、そのことこそが神さまの御業なのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□67番

□改訂版53番

やってみよ

今日の箇所で、イエスさまはペトロに『天の国の鍵を授ける』と、おっしゃっています。

だから、ペトロさんが鍵を持っているところが、よく絵に描かれてきました。

どんな絵があるかな？さがしてみよう。

<用意するもの>

聖書に関する絵がたくさん載っている画集など最後の審判などを題材にしている絵に、ペトロが鍵を持っている姿が描かれていることがあります。事前にいくつかさがしておきましょう。

はなそう

□ペトロは、「イエスさまは、生ける神の子です」（16章16節）と、言い表しました。すると、イエスさまは「あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。」（16章17節）とおっしゃいました。

信仰は、人間が生み出すものではなく、神さまから与えられるものだ、ということについて、あなたの体験を思い出してみたり、他の人（CSの仲間、スタッフ、教会の信徒さん、牧師など）の体験を聞いたりしながら、考えてみましょう。

2008年9月21日 聖靈降臨後第19主日

エレミヤ 15:15-21 ローマの信徒への手紙 12:9-18 マタイによる福音書 18:1-14

★今週の聖句

「これらの小さな者が一人でも滅びることは、
あなたがたの天の父の御心ではない。」

マタイによる福音書 18:14

★ねらい

①6節から9節までの結論が10節以下の「迷い出た羊のたとえ」で語られている。

②イエスのまなざしが「小さな者への配慮」に向けられていることを伝えてゆく。

★説教作成のヒント

1. 羊飼いにとって迷い出た羊を探し、群れに連れ戻すことは重要な務めである。羊飼いの姿に神を重ねて語られていく。
2. 迷ったり、過ちを犯す私たちだが、そのような私たちを神は大切に思い、深い配慮をされる。
1匹(少数)か99匹(多数)か、という数が問題となっているのではない。
3. 「小さな者」とはイエスから信仰が与えられた者。イエスの弟子たち(12弟子に限らない)。

★豆知識

「アーメン」は「はっきり言っておく」と訳されています。口語訳聖書では「あなたがたに言う」という神の強い意志を伝えている言葉です。そして、「確かに」、「然り」という意味があり、神に対する私たちの応答の言葉でもあります。

★説教

お弟子さんたちは、天の国で誰が一番偉いのか、そのことが気になってイエスさまに聞きました。イエスさまは、子どものようになる人が天の国で一番偉いのだ、と言うのです。お弟子さんたちはびっくりしてしまいました。と言うのは、イエスさまの時代、子どもと女の人は、一人前の人間としては見てもらえていなかったからです。自分だけの力では生きてゆくことができない、誰かに守ってもらわなければならなかつたからです。だからこそ本当は大切に守られなければならなかつたのですが、『小さい者』と呼ばれ、軽く扱われていました。

子どもが一番偉いなんて考えたこともないのことでした。お弟子さんたちは分からなくなってしましました。そこでイエスさまは、1匹の迷い出た羊のお話をしました。

いない!なんど数えても99匹しかいません。羊が1匹になくなってしまいました。羊の群れから迷い出てしまったということは大変危険なことです。その羊が死んでしまうかも知れないからです。目がよく見えないし、“回れ右”もできないのです。狼にやられてしまうかもしれない、谷底に落ちてしまうかもしれないのです。羊飼いの大切な仕事は、迷い出てしまった羊を連れ戻すことでした。羊飼いは1匹、1匹をとても大切にしていました。大きくて目立つ羊も、小さくて弱そうな羊もみんな同じように大切にしていました。だから、その中の1匹でもいなくなると見つかるまで探し回つたのでした。それでは、99匹はどうなるの?と心配するかも知れません。でも、大丈夫。残った羊の世話をする羊飼いがいました。羊を連れて帰ってくると、みんなは大喜びをしました。

一人ぐらいいなくなつてもかまわない、一番でなければだめ、そのような考え方をイエスさまはしません。むしろ、子どものように、何でも一人では出来ない、誰かに助けてもらわなければできない、

そのような「小さい者」と呼ばれている人たちを大切にしなければならない、と言われているのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は” こどもさんびか”（日キ版）より

□ 90番

□改訂版126番

やってみよ

□神さまへ手紙を書いてみよう。

手紙の内容は、後でみんなと分かち合う方法と、他の人（例えばCSスタッフ以外）には見せない
ということで書かせる方法とがあると思います。それぞれのCSに合った方法でやってみましょう。

<用意するもの>

- ・はがき大の紙（付録の紙を用いてもいいですし、それぞれに用意してもいいですよ）
- ・②-a の方法の場合／みんなの手紙を貼るための大きな紙（画用紙や模造紙など）
- ・②-b の方法の場合／みんなの手紙を入れるための、大きな封筒（スタッフが用意してもいいし、
子ども達が模造紙などを使って自分たちで作るのもいいですね。）

①神さまへの質問や疑問を、はがき大の紙一枚につき一問書く。書き出しへ、「神さまへ」や「神
さま」。最後に名前も書く。

②-a 大きな紙に、みんなの手紙を貼る。手紙の内容を分かち合う。

または、

②-b 大きな封筒の中へみんなの手紙を入れる。スタッフが子どものためにとりなしの祈りをする。

はなそう

□人間が「誰が一番偉いか？」ということについて考えるのは、なぜだと思いますか？話し合ってみ
ましょう。

□イエスさまは、「自分を低くして、子どものようになる人が天の国では偉いのだよ」（18章4節）
とおっしゃいました。“子どものよう”って、どういうことだと思いますか？考えてみましょう。
大人がそのようになることの難しい所はどんなところか考えてみましょう

2008年9月21日 分級案付録

かみさまへ

より

かみさまへ

より

※ はがきサイズです、利用しやすい大きさでご使用下さい。

2008年9月28日 聖靈降臨後第20主日

エゼキエル 33:7-9 ローマの信徒への手紙 12:19-13:10 マタイによる福音書 18:15-20

★今週の聖句

「わたしもその中にいるのである。」

マタイによる福音書 18:20

★ねらい

①21日(マタイ18:1—14)の続きとして語られていると理解されるべきだと思われる。

従って罪を犯した人は「迷い出た1匹の羊」と同じような配慮が必要である。

②罪を責めるのではなく、罪を犯した人のために二人、三人集まって祈ることは私たちにできることである。そして、神はそれを望んでおられる。

★説教作成のヒント

- 教会は天の鍵が授けられている(16章19節を参照)のであるから、18節の「あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつながれ…」ということは、教会の門は天国への門でもある。
- 教会は信仰の共同体です。共同体として、心を一つにして神に祈り求めるることは、神に必ず聞き届けられるのです。
- 複数の人たちがイエス・キリストの名によって集まっているところ(共同体)にはイエスご自身がおられる。

★豆知識

「兄弟」、または「姉妹」と言う言葉が使われているが、マタイによる福音書においては、「兄弟姉妹」と呼んでいるのは、教会に属する人々を指している。

★説教

ある人が始めて教会に行ったときのことです。渡された週報を見てびっくりしました。あれ！ここには、お兄さんとお姉さんしかいない！弟や妹がいない！どうしてだろう？でも、話の中には兄弟姉妹と言う言葉が出てくる？おじいさんやおばあさんもいるのに・・・どうして？

教会っていうとみんな建物、教会堂を思い浮かべることが多いかも知れないけれど、教会というの建物なのではなく、神さまを信じる人たちが集まっているところなのです。そして、その中心にイエスさまがおられるところが教会なのです。神さまは、神さまを信じる人たちをご自分の子ども、と呼ばれています。だから、教会に集まってくる人たちはみんな神さまの子ども。年齢に関係なく、私たちは神さまの子どもであり、神さまの家族なのです。みんな神さまによって兄弟姉妹となっているのです。

みんな神さまを信じているのですけれど、それでも、神さまを悲しませるようなことをしてしまうこともあります。神さまを悲しませることを聖書は「罪」と言っています。

イエスさまは、兄弟があなたに対して罪を犯した場合はどうしたらよいのかを教えてくれています。見て見ぬ振りをするのではなく、間違っていることは間違っているとはっきりと言わなくてはならない、と言われています。でも、その場合、その人のことをよく考えて言わなければ、もっと神さまを悲しませることになってしまうかも知れないので、「私もいつ、神さまを悲しませることをしてしまうかも知れない」、という気持ちを持って相手の人と話すことがとても大切なことです。

神さまが一番悲しむことは、その人が神さまの家族からいなくなってしまうこと、出て行ってしまうことなのです。そして、神さまを悲しませると言うことは、神さまの家族である教会全体が悲しませることになるのです。

今日の暗誦聖句は「わたしもその中にいるのである」ですけれども、その前にイエスさまは「二人または三人が私の名によって集まるところには」と言われています。

二人、三人が心を合わせて、神さまを悲しませることをしてしまってごめんなさい、とお祈りすることが大切なのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は” こどもさんびか”（日キ版）より

□ 58番

□改訂版16番

やってみよ

『二人、または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる』んだって！
今、きっとイエスさまはここにいてくださるね！

今日は、みんなでいっしょにお祈りをしてみよう！どんなお祈りをすればいいのかな？
まずは、話し合ってみよう。

① 感謝すること

例えば、『げんきなこと』『みんなと会えたこと』『ごはんをたべたこと』など

② おねがいすること

例えば、『友だちの病気を治してください』『〇〇が上手くいきますように』

『いつもまもってください』など

形はどんなお祈りでもいいので、その場にあったお祈りをしましょう。

例えば、みんなで手をつないでお祈りしたり、お祈りをしたことのない子ども達が多いなら、リーダーのあとに復唱するようにしたりするのもいいでしょう。どうやってお祈りをはじめたらいいか分からない子のために、一度、紙に書いて確認しておくと安心かもしれませんね。

例)

てんのかみさま、きょう、げんきなことに かんしゃします。ぴょうきの 〇〇ちゃんが はやくな
おるよに してあげてください。イエスさまの おなまえによって アーメン

はなそう

□18章の19節から20節を読んでみましょう。イエスさまは、今日もこのように私たちに約束してくださいっています。このことを、あなたはどう思いますか？どう感じましたか？

まず、一人で考えてみましょう。そして、みんなで分かち合ってみましょう。